

報告資料 1

児童・生徒数の増加を踏まえた学区域の検討について

1 昭島市立学校の現状及び将来予測

昭島市では、近年の大型集合住宅の建設等にともない、総人口は微増傾向で推移しており、今後においても一定期間は人口増加が続くことが見込まれる。一方で、出生数は昭和46年の1,850人をピークに減少傾向が続き、将来的には人口減少に転じることが想定されている。

令和7年5月1日現在の住民基本台帳に基づく人口データをもとに、現在把握している今後の大型集合住宅の建設に伴う児童・生徒数の増加見込を加えて算出した令和13年度までの教育人口推計では、市内全体では児童・生徒が概ね横ばいに推移するものの、学校によって児童・生徒数の増減に大きな差が生じる見込みである。

2 昭島市教育委員会における適正規模の考え方

学校教育法施行規則第41条及び第79条並びに昭島市立学校適正規模適正配置等審議会の令和6年2月の答申を踏まえ、本市の適正規模は以下のとおりとしている。

小学校	・学級数は1学年2～3学級が望ましい
中学校	・学級数は1学年4～6学級が望ましい

3 今後を見通した課題

(1) 拝島第三小学校及び拜島中学校

恒常に適正規模を超え、教室数の不足が見込まれる。

区分	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
拜島第三小学校	604人 19学級	645人 22学級	645人 21学級	644人 21学級	633人 20学級	647人 21学級
拜島中学校	664人 19学級	663人 20学級	662人 21学級	678人 21学級	660人 20学級	632人 19学級

(2) 富士見丘小学校

適正規模を維持しているものの、特別支援学級と合わせると教室数の不足が見込まれる。

4 今後の予定

令和7年12月頃に昭島市立学校適正規模適正配置等審議会を設置し、現状の課題等を踏まえ、学区域の見直しに向けた検討を行う。